浦島太郎

上

暁山集序

此暮雨一冊ハ新らしミの八事にて聞書に随ひ
蕉翁ハ俳しとえを志らせしより之を名高き私は
去よりしも一議し先師に学て古き鏡なる
事ことしを唯一偶とかげく蕉へられしか
縣　今ぞ落されハ雅かし理とを知るよ
御らニ偶とあらく時胸中しけく日はれ
ゆやもり氷のことくに解　雲のことく晴て

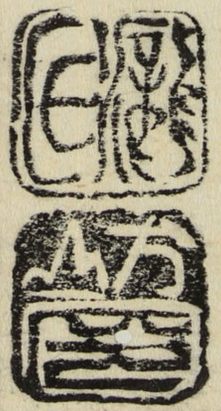
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

元禄十三庚辰年春秋[illegible]



誹諧曉山集目録

一 連歌[illegible]事 毎時代[illegible]句

二 俳諧[illegible]別[illegible] 毎連歌俳諧親句[illegible]

三 面白[illegible]事 毎十句[illegible]

四 種々[illegible]歌[illegible] 毎[illegible]事

五 脇の[illegible]五つ[illegible] 毎句[illegible]

六 第三の[illegible] 毎[illegible]句[illegible]

七 四句[illegible]句[illegible]

八 五句[illegible]句[illegible]事

九 六句めの所為と九姿氏歌のこと事
十 七八九十句をつ事 表裏 焼ひ詞と云歌のこと
十一 古今 紀貫之 四季 歌句 也
十二 也 歌賦 紀 品 こと事
十三 紀貫 紀 九 名別 表 貞 流 立 東 海 其 こ 日 歌 初 句 歌 事
十四 古式 連歌 法 の こと
十五 紀貫 古式 ノ 法 と 月 論 こと事
十六 也 歌十 紀 ノ こと 表 句 と 引 て こ ひ こと
十七 同 歌 賦 と あ こ ひ と こと

十八 宗 祇 種 こ の 神 と 分 表 こと
十九 六 義 古 海 表 句 と 引 歌 こと事
廿 也 紀 篇 序 歌 曲 流 こ こと 表 句 式 引 事
廿一 親 句 疎 句 こ 事 表 句 と 引 こ 理 と こ 歌 ひ こと
廿二 名 文 文 こ こと 表 句 と 引 こと
廿三 文 仮 草 こ こと 表 句 と 引
廿四 皮 関 書 こ 事 表 論 と 九 姿 氏 歌 ひ こと
廿五 口 道 ノ 事 表 句 と 引 歌 こと
廿六 同 類 名 別 表 句 と 引 四 答 こ 事

八十七 弄の病ゝ事
八十八 いりぐちの句と引事 四番ゝ事
八十九 雨中吟ゝの句と引事 歌ひと事
九十 未来記ゝ変句と引事 掃ゝ事
九十一 云々所為ゝの句と引 差別をつけゝと事
九十二 闇句作り句と引 云歌ひと事
九十三 荷切ゝ事句と引
九十四 冠為と句と引事
九十五 袴為と句と引事
九十六 水ゝの句と引事
九十七 鰭の詞句と引事
九十八 四つ手付句と引事
九十九 元禄付句と引事
百 詞、多あひ合ゝ句と引事
百一 思惟をへゝ詞句と引事
百二 うあゝ句と引歌と事
百三 良処差別句と引事
百四 五音也續の句と引事

四五 仮名いろはとなる事 無片云用捨有べきなり

四六 はめ字のとんえのもの

四七 同意なる事 無月毛八 赤白を意なるべきなり

四八 中奇やうなる事 無あけ旁 僧侶なるべき事

四九 分際とるべきなり

五十 男と聟しくとなる白と同事

五十一 出家老人の前に意とべきなる作べき事

五十二 若出家八 意と意とべきなる作べきなり

五十三 老若僧俗たがいしべきなる作べきなり

五十四 述懐の中に無中に 無中に 無行の意なるべきなり

五十五 意の中に無中に 無行の意なるべきなり

五十六 まにと業と云事 無文字漏べき意

五十七 切字と云事 無漏べき

五十八 連歌紙諸十八切字なく事

五十九 小 五ツの品なるべいつもと云分なる石作べきなり

六十 七ツ八ツや品なるべき無なるべと云て若男と句べきなり

六十一 三ツのしらべ 無二世八 赤白 白 同意と歌べきなり

六十二 不のめ 無中めべき 無三契べと分て海べきなり

(四三)こゝの字ハ遠くよむ俱詞とも也てこゝろつかひ事

(四四)うよいろく所ゝ字ハ清濁切字よりわりまゝ

(四五)ゝりハ詞と歌ゝとも事一来通用のこゝもしるゝ

(四六)ゞハ字のゝ上ゝ白とゝ引合ハ歌ゝとも事

(四七)ゝの字ハ上ゝ白とゝ引く歌ゝとも事

(四八)ゞゝ字ハ表所ゝ引くゝ

(四九)よハ字ハうゝゝ

(五十)せの字ハうゝ事

(五一)ゝの字ハうゝゝ

(五二)へハ字ハうゝゝ

(五三)けゝ字ハうゝゝ

(五四)いふのハうゝ事

(五五)数字切字十八ゝ上ゝ白とゝ引くゝ歌ゝ事

(五六)下句切ハゝ

(五七)事ゝゝ顔ゝゝ切字俱ゝ和とゝ引ゝ歌ゝ

(五八)大段ゝ切字ノ差別

(五九)三段切白とゝ引表裏とあゝとも事

(六十)二字切三字切ゝゝ

(六一)面ゝ切字ゝ切ル白ゝ事

(六二)よゝと祭切ゝ事一

(六三)こゝの字の發白ゝ上今白とゝ引歌ゝ

八十四 上は切字にて止と為る句也

八十五 こそとよりて止と為る句は終と為る 云説なり

八十六 發句止と為てと切しめる

八十七 疑つて句〳〵つけく止無しにて句と終る句

八八 うゝひ字にて止と為る句は句と切て終と説なり

八九 こゝひ字無所とあるは句とうけるなり

九十 らんの字の句

九十一 字なくてらんとある句

九十二 らんと為る句は句末

九十三 一字にて止は字なつゝめる

九十四 二字にて止は所にあるなり

九十五 は為は五所にある句

九十六 助て為 字にて止

九十七 止はその字にて為る句

九十八 そとよりて字にてうけける句

九九 ぞゝはの二字止はにてと為る句は終止

百 ゝも為る句にて具云けゝうを事

百一 とは如とそはは為る句

㊀下の句てあり、未詳

㊁ほくあうくうり

㊂一の句まあの

㊃ちくのくとあのるり

㊄くやうくやまくとくり

誹諧曉山集同録終

㊀歌記之事　再誹諧若別之事

昌孫新式講尺云連歌由来事　八雲抄云流れかう

統波問答云抱普光園院殿　をぐられしまみえそろ

歌八寄ちりにくる云義八俳諧俳諧尊くしろて

ことはのくとの風いさるの名ひかれしやうとと

ちよあひのくとうけ行ていさるみのるひかしやう

まくおわしこひあひのくと付行ふと女神お神の つ寄

寄とて歌のくとじのよう風雅日記紀よ乗を法を

ひのとれるの三十一字よ面一行ふと天の浮橋の作ことて

えの神詞とうけ給はると陰陽の道たゝかひて男神うき給と
みめうるわしくして男神うくしびめて女神よ初りけ給へ
とぞ其後人王十代景行天皇四十年東夷征伐之時日本武尊
甲斐国而打ノ宮ニて「拝殿磨利菟枝皮鳥擬底美枝用
加祢菟流」とゝろそどさんれ之事ハ央とゝろの事と言加感 奉陪底用拝殿
虚々絡用拝殿菟鳥加鳥と付くるく是連歌の三句ハ
うりくくしに対して行くくもうりてもうしハ日本
武尊と今天神の像とうくるやうに家ゝとく社其後京持ハ
ゝ行の水とせういまてうくへ一回とゝ言ハ尼乃付て云ハ

わさらひひうりのうくへ（万葉ニ狩人業平伊勢下向之時社宮よ
りとうちうくのうくれどのまとめえめ〳〵乃道ハとおりしるみ
ゆうさうれ翼ハ鼠ゑんと付給ハ（鼠ハ梁ニ是まもつぐ寄ハ上ハ上の句
とゝうくれハ下乃句と云下の句とうくれハ上乃句とゝ云ハて
百句ゑ千句と云ふくるゑ事とゝ又拾遺集ゑ連
歌ゝて入給ふ上古乃連歌ゝ云と又人乃ふるゑ乃ゝ今始とゝ
ゝゝめゝてどゝゝくゝゝゝ

拾遺集中ニ 中務ゑ給ふ西京ゑ源致方朝臣乃りくへ八重ゑ
梅と打て行ふ乃とゝ

流佛のうつくしきを折れば花　作人不知実貞

孫宝ともへ人をもとしてそこれ　ひの百朝臣

世の白雪をうち捨遺集拾ふ人流佛とうふ付の孫宝もうん　次書云

孫宝ともへ雪をもとべ雪　地公明之とかうり是とそこふのあるかくうるれたれば

ごとやうにくまうるこ重ねてうるあるべし　弔ふ人流佛とも孫

宝ともを歌よ作ともうあれば物一紙

ひとひとひさうあるかうものこうでおかせてれけ

ひうとかうあるかうあるこ今ハれうくうりまう　天暦御製

ひてそこしうる

義よあうつべおひしやかうん　おもけ今ハ問紙

白ふかうつあ人とちぐうてかうりけうあとそくはうでき

うるかうにうりとうこうけるどきてあのうこうけうる

人ぶうこうりの今ハあのまうしよ

義ふうあやうとねぞときようる　遍昭僧名　良岑宗貞

とかはうるとそ見ふ紙こうぢ

かうつま人新こうそかうやうそこれ　とうあよ

うちかうこうまうると雑うやかうん　とかうこうり

見ふハかうこうにうあ和あ　ひうしこあハとう寺とも云或ハ沢白とて

云宣れる姿にてとりつくるもやうにて代々の歌
よ其他とくのひ事計階あるもはり

わが身は老てなりわよけるぶ　とこたのあるに
むしの玉のちろみ出て嬉さ哉　蕉窓に

れ連歌に哉よとるる所をとしくもちろりあるに其ら
りくるにあるくて八者のうりべあやや哉八首こよとろ
あるまときこふ塩ばに八白よ序とこのべて下八白そ
ちこ越とこふ下首尾さくる義こき歌八長短の白無
よちころう首尾とくのひて相あ白へしわるとうと

ちとひうこ八涙白とこ云事今のどうくる首尾このてこ
しのこ白ゆうみこうち伝こ八白ゆまでもこやこに
あうとこくこれば

嬉くてわ今こ心思八いひてそや

是伝云ど白なくくそお一白あるくくこて今ゆきてふ
廉遊ふ歌のそ思る歌　今川て後
こ伝ひるるやうれ白お事のこ白下白の歌こてぬこあ事
ありくそ大やう可蓉寄とうこりて五十白百白こあ
伝る但こ歌八とどくこ宣れる事伝ら羽流の時御制衣

なども多く定家家隆などの日よえんはやごときことを
みて作る歌文式目乃定まるなり大淀字多院建治二年放題
会義谷為相に仰とうや建保しちり六十三年ねのすこ歌ハ
なし式連歌乃所、明月を作るべし

(二)誹諧と者別之事

誹諧とゝ云ハ先連歌ゝまちゝ無作ゝまちゝ事ゝて
定まるゝ法をみるどちゝく貞徳ハ奪ゝ云ゝ滑稽
大義波とゝ云ゝひゝゝまゝ歌と貴ゝ誹諧と唱ゝやゝき
道ゝおゝとゝ乃宗鑑ゝ法ハ作ゝ事ゝ二条義義波

集宗祇法師新義波とゝ作ゝ為ゝ乃ゝ昇ゝ下ゝ事付
ゝ法者ゝ義波ゝハ連歌乃ゝ大菊ゝ大柳ゝ大祇ゝ人のやゝに
誹諧と大連歌ゝ云ゝハ作ゝ下畧ゝ波是誹諧集ゝ作ゝと
ゝれハ奥義抄ゝ書ゝ出ける誹諧序の誹諧と字ゝ見て云
漢書之誹諧ハ若滑稽ゝ滑稽ゝ者ハ酒器ゝ史記滑稽伝ゝ考拍云
滑稽ハ酒器ゝ言ゝハ出ゝ成章詞不窮竭若滑稽吐酒ゝ傳云
大史公曰天道恢々談言微中亦可以解紛侵盃ハ
多弁常以従容諷諫優旃善為笑言論合於大道宦者髡
滑稽多弁部舎人教言陳辞雖不合大道論合下人主和説上

是を善潜秘書人意也 俳諧の字は わざとくるしむる心よりて
こゝの人偏戯言と云へり こゝにも不義なり 今案に潜秘書の
こゝろ也 ゆへに俳道にこゝろを成道 若こゝに俳諧は非正道
して こゝろを迷ひ義にこゝろを奪ひ放逸に成 或は粗言
利口にこゝろの如言語 火と水と云すく或は粗言あ
て 如義とかくるなり 又いはこゝろ沼あらはれこゝろ
又云 俳は書非之字 俳の書可用 俳の字をこゝ雖 古今捨遺
おん用 俳字也 不字多個 捨遺 八雲抄 或流曰 俳諧有 捨遺 俳諧三 俳諧四 潜秘
五 俳諧六 謎字七 空戯八 鄙俗九 粗言十 是 皆奥義 ゆへ
俳諧 ゆへ 俳諧奇の 数 四巻 今の 俳諧 ゆへ
ゆへ 俳諧 云 俳諧 公任 ゆへ
も 不知 道俊 捨遺 捨遺集
ゆへ 俳諧奇 捨遺 ゆへ
俳諧 ゆへ 俳諧 ゆへ
俳諧 ゆへ 俳諧 ゆへ

名付てこれも人みな知る通りなれども初めてこれを
紙鳶と歌にてはなく別にはつるのうたあり俗に石は連歌の法
と定めなどいまだ今の紙鳶今の世の歌皆混合して来る
也然るに彼蓬洛の舊式應安の新式あと定めなるべし代々
の名師詞の要所をとりえらびて書きつづけ
へる事にはなり行くなれば俗云と集りて一句とする
ものなり和歌にも云ふよりあり行くこれば彼はきこしめす
と振せるなり紙鳶はたもとりてまた文字とりて紙鳶の
き歌にはこれのみなれども紙鳶はあらべし是あらてこ

彼家温故六流波と名付紙鳶の句とえらひ一を歌の句と
昇下に毎付る名にいにしへ流波八則の歌の表
紙鳶則わき歌彼大義六則揚よ惟じて六を歌と云表よりわてくに名
付るあるべし抜て其句とみるは同の俗の句をも
とも俗よりはいにしへ人とたがわて付ることみえてこれ
ばもと表の浪まても紙鳶は五十句百句と続けて表
あるて更歌漢産の浪四八表りてやこれとやて
こうそれを歌にわ出るる紙鳶の句のこころにたること
紙鳶する夢やうにぐらの帰　仙吟

千種乃花迫りむものゝへすゞせ　宗長
山の端よ白妙ども月出る　宗祇
又誹ニ紹巴まで也歌誹庭よ榛乃名しるされハ
こひ鳥のこゝもちる霞の秋　玄旨
梅本に定りこしり稲妻虫　紹巴
灯をとりる夜戸の姫しめけく　昌叱
かゝる句是まてハ也歌なり出る誹諧されハわざとて額ハるゝり
たゞしきありまたさし乃所しさる句々首尾なきられのまわざゑ
まゝ乃伊勢ゑ山田乃神官荒木田守武ハ山城の山崎ニ宗鑑
かくる人ありて此道を色ひとくたても歌誹諧乃たゝらくと嘆ひ
守武ハ独吟の千句を綴り宗鑑ハ大筑波と作れるを法とられ
點しもき歌とくみれともふかく沈應安の新式和漢乃法
度をとりて連歌と寄りゆる誹諧て松永貞徳ハれ傘と
いふ物よ最初て俳言の口言葉ハたるひ草よきりもて某の色
誹諧も歌乃式目と大かたをとしゆるすこし独吟他是とたきに法て
此道にらくしく紹巴乃ともなせるすとありて由紀され
ども〻俳ハ此歌よ似ましぬやふかのけるゝすや一句の
縁つとやう表乃句ありけ　小寄　鏡世語と也羽あさとあるほとつ歌

付句ハ多分和歌又ハ句の句ノ道具付物なども明らかなれ
句のがらひ和句ノ味ひとしまるとこ云まうくくかり
〜其中ふとやどと多く道ふ者つくらこ人ものかうけ
ふやかの俳諧〜云と大切ものちとおりたしげまや唐
ひとと又雅三変ものもいつるしあんこ〜とうこ〜今ハ
むしれいも深とたくありて自然と句毎の姿幽玄
よやとこうく句意又餘情伝とひこ〜毎句作り出
せる所ものまこがうものしあうて俳諧とうる句ものを
らくハ清人も哥人ともに歌所と恥べおるものあるれ

連歌ハ大やう宝ものる付合又ハ詞ノ外余情句ものをひ
くてとのまくくう情と自由ものくくまれうの
俳諧ハ言外味ものれものゆるしてどれハ分ものうう
ゆものゆうもこ事ものまこ実と世ものうう
〜〜にとこ言ものの親句疎句二体ものこ歌ものの同じと
どこれ付ものこ意じこ事俳諧ものとこ言ものうう扱ものこ歌し俳諧ものを
言別と多ものるにまこ歌ハ親句俳諧ハ疎句なるこ変ものを 親句体
ものこハ詞やさどものこえんものハどやうものうとこ〜こ疎句
長ものくくこ〜明るいものこえこと変句ものくくこ〜ものうこ

あるとこそ云へどうれが貴之万葉集の中に此二首と云へ
らひて奇妙とうるはり

白くれるいさ海の人まくらんまつ母と云へん
酒うめる家の者とへてのこさやひ〜かはる者ひとあること

又味白の事として

鷺の居る池の汀の春ふりて松はかのいろ〜そもとん

又意歌

こゝろ花やうをやうもあり〜まこと玉おの白さ
いかはまれ光のうしろの春乃夕　と作うり

親白神ゆと歌に氷のうへは波そ云あり白しし

ゆゑる歌の月のうりのむすき　良乃

はおれとこゝとこゝとそ打くりはくは奥さ親白ゆ乃親白の乃棟白ふの棟白ふべ
し今こゝは余とこゝりて云へ歌祇階と親棟こゝりの
親白ハ有相　父字　性　性字　親
白ハ教　言語　法門　理　実　親
白ハ禅　黙止　重　親白ハ
不ろ義紙　是ハ三義の教の中ふ如ふ実相中一道ふの乃実ふ者と乃
まと教るよ偏ふ教りとを。棟白ハろ義紙　是ハ別教ふの実ふ実相
所くハ教るが〜　中道ふの実ふ実相と教
教ふ乃諸紙こハ海字紙くも云顕実見と文字と教るよ偏と作り一字

にあらずして数あるがごとし佛智見をひらかしむとかや義なれども二諦
義ハこれに翻して親句ハ世諦（セタイ） 迷之 有為之 識之 有漏之 生死之 煩悩之 輪廻之○疎
句ハ第一義諦（タイ） 悟之 無為之 心之 無漏之 菩提之 涅槃之 抜戯之○親句ハ有心（ウシン）
小乗之○疎句ハ空門（クウモン） 大乗之 あつハかはるとも初心の時ハ浅き
より深（フカキ）に入てかて深きより浅きに出るは是佛法諸道
の用心肝要也と云へり有相の哥道ハ二元相のはかなき三ッ道
の難所（ナンショ）を云これ役の指南ともなるにハ不て因泥すの形像ハ尖
智にしかれ發る絲にハ絕生之ハ清界よりも流れともなり一大
事ノ因緣ハ小乗よりもあるともいへりされども有相無相の

まし歌も俳諧も發句とせんと云ハ先にも言ふ嫁の見えさる
時節によりておもへる句とせりとそべし其時節遠ひつれ
ば是を第一とおもひけりされば當捐
卿の母阿佛 号安嘉門院四条 ともに人東へありけるにまかりて當
なる人まし歌とこそあるそて阿佛に發句とこひすゝめる所
へふかいや嫁の陽りも感にそれとして申せるにはかれたる
それよりて一會満座して次第又翌日假しかりけるに
阿佛に發句をとこふ時の又名乃くしめでには
それと季もし出しかも抜にて哥ハ題と發句とせり

連歌ハ発句と賦物(モノ)とゝもに一紙ハ其時節と縁(ヨル)に遠ざけ
ぬ所なへおのづからしられたる也るとりや是ハ彼時節を
不遠として云出るまで之異なれ物初心のまゝ
びゆるは心得つ神(コトバ)のを見るべしよくくあんじてのち
如何すべき也るへし扨又ち庭にもあらぬ事ありと云
江河湖並木苑草露葉風雲霜鳥獣も
其外器財風景などの類まで古は其題にて面白と云出せ
又これも和歌に歌書にてもおもしろくてたくさんあるやうなれ
徳ハ此庭発句にハおもしろからぬ故但月次の発句にも只今

句なすものハ第目より知れたる事なれバ数日工夫思案を
めぐらし一字のまかせとをとりそこねぬやうにする故
事これハやう内外の書籍并読などりとも随分修学
と名付くしき深き長高く幽玄にして一作なるべし
むかし五七五の詞(コトバ)上中下垂語(シキカヘ)にして句のさるを吟じ
味ひてよきと思ふ事もなかりしぬやうなりけるべしうろ
くしも作(ツク)り出しく人ニ雑(マ)ぜて桃桜梅などのやうなるを
云なすくらべてもみし首切冠なども譬喩なども当てもさて偏句
作りなどいふ婦(テ)ふまでの事なき粋奥まで志して作る粋又

右上本ハ年號おもてにうるとおぼえ始終おぼつかなきすゑ
をもとに句を作りおき一人よ裏意と易るれ也善
きハきづく〜書事あるべし〜ゆやうにすかるう
ずく云ものとやうにきまり侘ものハ發句に限るま
し無句付合ものをもとにあひつまらぬ也て發句とせん
あハ必一句に自問自答のかんあくて平句ハ発句
と云地をもつらず狂又發句ハ西鶴のくりかへしを
云ハ大やう宜りしるす神祇天教義傳述懷〜舊伝
續祈禱若伝鎖別遠宮繪贊かゝ古事ハ祇古尊

右詩經文ホメ〜時よりかて弟〜伝ゆをてをこち事ハ
句〜ゆ〜〜句時ハひとを云ゆ〜〜ゆ〜〜ゆ〜〜ゆや
ゆりとりくべし能〜ゆとちゆゆ作とめゆ〜〜
ちゆゆゆゆし又ハ發句ハ辛〜ゆり也歌ゆ〜〜ゆ
くみて〜ゆ或人ゆ〜ハゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ
ゆ〜〜ゆ祇猜ハ海ゆ奥ゆ發ゆ〜ゆすゆゆゆ乃
句ゆ〜ゆハ多〜ゆ彼句ゆ〜〜ゆ〜〜ゆ〜〜ゆ

神祇之歌　天神宮往樂ニ　ちきりけさ色や初る天神路　宗祇

同　祇猜　△たうとさゆ猜ゆ　遠宮　桃青

歌教 題歌 みちの国門ちかくなる比 允敬
同 俳諧 △こゝの色くさの面白き 初舟
長傷題歌 五月やみはしをこりやうやうに 玄仍
同 俳諧 △分よりこゝろぶかくなれもやあるる 影堂
述懷 題歌 世よりふるはしに西面のやうに 宗祇
同 俳諧 △はしらはしらに世八ぬる袖 閑月
懷旊題歌 △西行歳 右近 宗碩
同 俳諧 △ひらく蓮より笛の音 実人
徒然題歌 若い〳〵生のわるうりや窓の竹 昌休

同 俳諧 △こゝろぶり 素堂
新禱題歌 けてとゝ高ひくくとも色風雲 昌北
同 俳諧 西よりの乱れ〳〵 玲笑
名所題歌 稽古とく濱名ようとひ久代 有栖
同 俳諧 玉ぬやてゆるゝ 東之
錦別題歌 高よりの面風よ 宗碩
同 俳諧 朝ぬ京やなる蠅掃 信徳
造宮題歌 ゝゝやむよりこゝ 紹巴
同 俳諧 ゝゝく高肥んやぐら 友也

繪讃狂歌　芦雁ノ絵
かるかるし八二羽飛と芦の指葉哉　昌俔

同　俳諧　寒山拾得の絵に
△あくの葉ハ落るに任せて掃ぞらず　白杉　道弘

賀　狂歌　長原氏稚児千歳のよに
百とせよ千とせも重ねて千よ祝ふ　宵柏

同　俳諧　とうくう竹にて
△よよふしに露のたまける根せわし　伏見　三箇

雨乞　狂歌
そらに御るや雨とのぞみの稲の葉に　宵柏

同　俳諧　吹の日雨乞りけるとき
△雲田千九氏のみげころや雨やさめ　京　心斗

餞　狂歌
笑ひ二度も流れ身りきぬ桜かな　昌俔

同　俳諧
△隠ふれ出すい暑の氷柱　紀品　順水

古事狂歌
月は今網ととらふるのうろこかな　智蘊

同　俳諧　巫山神女と
△巻女の来て承と抱くる哉暑　佐倉　伴水

古詩狂歌　軽四羅ノ小扇撲手流蛍ヲ
とる袖にうもとるの白ふりかな　宗祇

同　俳諧　又班婕妤団扇ノ扇と作ル図に
しもとるの風情月に銀団かな　江戸　甚兵衛

哀傷狂歌
らくれゐに煙いの袖に露かな　宵柏

同　俳諧
△筆のさや焼て絵秋の歌かな　色　萬樹

追善狂歌
月もとひ出てこせ行よ別れし　昆体

同　俳諧
△くやこい人のこぼれやうくも　文卅

本説狂歌
一もとやふりくれちりの山桜　宗祇

同　俳諧
△夜草や竹の子かなかな燃　京　二重鼓

古寄　明日もうんぢのむらくらう　宗祇

同　雑諧　へ生れ出るうとれん行のごひ　真角

美紙被　宝永年中の俳の色紙　そこ〻ぢ苔のくらくたえわもてなす　昌化

同　雑諧　へ名月みひ〻けのぐらく美紙窓　元民

死鳥　但三月桜鯛を　もとゝ時ゆくるぬやりのくられ　宗砌

一ゆゑ雑みハ行くうんどうれいなむ者の食白の翠こゝ〻むう

鳥う一方とたゝうゆゑて一方おいそれとさゝするやうゆゑ白

と仮ゆゑ明めゝ式と云ゆ雑ゆゑ明くゆ　白山深非新時

式是ゆゑ雑みの明ゆとゆゑてのゆゑくさんハ時ゆゑ式の詞

う鳥とひとゝ時ハ雑と新ゝゝゝ

同　雑諧　うれむやけうしの高まぐゆゑ　白山

是ハ宮月の死鳥ゆうれむゆ行ぐの高く云く鄰云

ゆ隔（カキ）ゆべゝ彼六条行ぐ乃虎ゝて行原院と新

ゝ高ぐゝ但此度ハ集乃中へ入ぐ幸ゝぐ

うゝと新ゝゆゆゆ行ゝねゝゆゆゝゝの書

加へ行る必此白ゝうゝゝゝゝゝゝゝ

其行ゝゝ行いあゝゝたゝゝゝゝ

べゝはみゝゝゝゝ餐白の風情姿も歌雑諧ゆ

いろ〳〵あれども畧す準じて知り給ふべし

(字)武人同脇の条

脇は発句の心をよくうけて時節の違はざるやうにすべし一句ひとつにとゞまりやうに作り立発句とまぎらはしきぬしのてにをはを留めてもかまはぬかとひては脇の本意にあらず但発句に居所なくとも脇には留め留ることを得ざるがゆゑやうにしてよまれくるしからず古事本説の発句なくしては其本意を失ふやうになるべし発句に付ては類水迄おしはかるべしわかれて次但水

あらぬ子細あし一句の留りは句の品々文字留りにて留るこれと定りて発句とのこいふれば脇は其まゝ留めてせぬ也ぞと云ふ脇よりきまども連句と隔と云ふ是は文字句は作者へ対して申すべきに留るは云挨拶之をふくみて留るは琛草の心みなする之字留は真実の心それ〳〵発句よるものふくみかましくまかしかねるもの余は大原千句也第五武蔵藤尾花の作と云英梢山脇よ秋らめよたくぬ月ののどけさ千代宮是文一句のものらるにかうりまきうりといふとこういふも是ぬは文字数同前の

白もうるべおすとくく今〜味ひてもてべし今
時雛鶏の服とそれば鶯の毛蝶の羽きぬるの類
ぐ毎る類あげてうぞ〜べし〜どかくのごとくこと
くハ又ものどうと云ハ又ハ〜ずて其則ようと毎こうの
服と又毎とも作者そいと情ることれさしハ服ハ得
ハるくおの家ハ神祇釈教表場懐舊祈禱祝言ハ
ハ衾白あ〜ハ裏ハとよく味ひくごりあ〜ものとあう
ぬやうもとへ〜又述懐の衾白他ハ白あ〜ハのこと
ようあ〜てもとるとか意とするとこ毛則ハのんと

あぐるは同し狩遠付とこ〜ハ〜ハ〜ハ〜ハ個独作の問ハ
脇と述懐ハなりもとべし又挨拶れ衾白ハこ挨拶
ようりあとぐると則服の挨拶ともとるの〜衾ハ絵
やむは絵ハは今羽の君実世云ハ服ハ〜ハ〜ハ〜ハ
〜〜と〜〜せ宗ものハ宗ものハ問三条衾あて
〜〜〜〜れ衾白ハむは絵ハたハて宗ものと絵う
〜〜おれると服ハ年ハ言と絵ハるとうりあるる
なるべ〜是ハハとくくハひとくくべ〜又者ハ
述ハの衾白ハ服のうけやハ夫ハ〜衾ハむとう〜絵と

和漢とりまぜたるものとをくるまるもの和紙をすべて
むすびのとゝふえて脇とをとゝ人しゝとゝ爺ハ桐の葉ゝ
出ん鳥や鳥のおゝ宗祇ハ養白鳥と鳳凰よたゝくるを
新羅ゝ鳳凰ゝ桐ハ祭おゝらて面白ゝ何ゝ和出ん
鳥ハ鳥ゝ鳳凰ハ聖人ゝ時出る瑞鳥ゝ梧桐ゝ竹ゝ
ゝとゝ決ゝれハ脇とする人鳳凰のゝと葉とゝ
宗祇ゝ和ゝ書ゝ紙ゝ白ハ鳥と養て伝
ゝるゝ白ゝれハ鳳凰のゝと鳥ゝ
ゝゝゝあとゝる煙風ゝ

けるゝゝ人ゝ名の養白ゝ和
ゝゝ面白ゝゝゝ
ゝゝゝゝゝ若祈禱祝ゝ
ゝゝゝ爺ハ養白ゝ脇ゝの何ゝゝ
やゝのゝ見合ゝゝゝ道ゝゝ
ゝ桐ゝゝゝゝ
の河ゝゝゝゝゝ

○脇ゝ五ゝ仕ゝゝ三ゝ共ハ祈禱ゝ白ゝ養
ゝゝゝハ五ゝ三ゝ共ハ祈禱ゝ白ゝ養

相対付とハ春の発句に秋を付むかしハ柳と桜ならハ
桜と付れ是ハいつもよ対をとるとの事なり　又対の心をことさらなり

連歌発句　若葉さすかくるさくらハかすむ霞

同脇　卯乃花や雪や卯月まじり雪

誹諧発句　鯉のぼる御幟も此花の瀧　宗清

同脇　鶯ハうちとけてとまる松の枝　流味

是ハおとこといつもや対をとる春に秋に柳に子規をとりて
相対付とハ発句に面白さにさへもとをるまじき脇を
風情と味ひふかくそへ脇にもさするなり

連歌発句　音もなう山かくれつゝ夕かな　宗祇

同脇　河水ちかく出る山の里　肖柏

誹諧発句　宮人もうつくしうなる花のかも　松友

同脇　鶯しめり啼る三月長鳥　成良

是ハやけ如くさる此誹諧ハ三月のむさる数多にも雀のみに
てもそへらまじけるなるべし

○遠付とハ西といへバ東と云春といへバ秋と云て則付
そうれどもてもよく付合の味のよき遠く次をも付るなり
捨るがごとくきこゆる古今も申されきかなる

眼は薄なりしと云むねの句の味ひを知るべし

連歌発句　霜やこゝろ郡とす秋の夕霞　宗祇

同脇　月こそ嵯峨山の花のかげ　玄仍氏

此句宗祇発句わかれ海と聞ばあはれいづくの寺ぞここと

おもひし懐とのべられしも述懐の心ともとして花かれ

からずまし よみ残し付られて

俳諧発句　画ぶの楽しひいきは四五天　伏二 西峯

同脇　霧の奥ハ東帯の公　伏三 拾宗

なりても其句に遠付とかんべすやしかおもとがる色くるゝべし

又付とハある句の意味ひとよく請けて何とそうりて付る

ところよハ句のほか心ちのかゝしと云中ゆらにもあるとを云但しこれもよく

もちひいるくまいるべし

連歌発句　霧のかゝるは小草なびく川風　紹巴

同脇　芝生がくれ寒き蛛の下水　同人

俳諧　もりまた夕橋ら花し山桜　京 ?

同脇　紫ちえぬ暮雨霽石　同人

なにごと類もへきなりや

此発句ハちか節とおもふ遠ハ今日のうゑもまくかそん

しこ中するゑところさへみかやうにて是よハ秘事口傳云

右二條發句　時なりて嵐や枯野の桜咲も

同脇　雲さく〳〵いくへれこそ　かゝるに

第三よ　同じ賀よゆふ影をつゝし空澄月　京　定之

同脇一　嫁の袷と二川　手引しる　江戸　立志

是ハ類とすべからざれども其理をせめて名ハ脇ハ
ま句とかゝりて其ハ發句よとひきあはすとたるすしてもる
よみまぎのくま　やうし次

⑥或人問第三の弁

答ハ随分長高く幽玄なる弁とならせる平句よぬ
詞と堅ことをもくべし　但發句脇よ意趣云むとそひかれば
第三よてハかと離じ中すべし　脇ハかゝりくゑうを
そてひらくと付ぬとよしともとより發句ハ其ゆ
よ随ひていろ〳〵のとひらきる猶も脇よ心を随って
第三よとおそハ一旦の發句なりとも得べし　付句を
發句と同月よなりぬやうにて殊格又發句むかうの第三ゑ
ん稍ある事ハ發句よ添ふてかるなかるべし第二句ハ素気
さするべし　色々用能くもてゝもこゝろもひとしうね中

あとをすゝめ留りの句の字俱一字をくはへる歌を
とめ〳〵より為りあぐるよりつゝくべし
をもて初心をしたがひひあくまでんぶをやうてご免
らんぐめと初るべし　句の為りて為るすもをもと
人毎に字毎〳〵に見あい脇〳〵ひつ〳〵きたす〳〵ひるを
大やうとゝのべし　発第三八表白脇は人やうをもて人やう
とゝ表白よりの字脇の脇めてぞ〳〵ぞつぐ為る
問ふい脇のてよを為くべ〳〵ぐ〳〵八四五句をもてをもぬ
第三の字毎にとべし　俱句の字毎〳〵と順日世界

発句の表白の時は人事八雜の句ぞ〳〵の第
三句をもて云体の表白よりの事を非時の事八ひとつ〳〵を下
の五文字　ゑを初めもの字ぐ〳〵もと集りて為るをも
ぞとゝ〳〵ぞ〳〵ぞ〳〵下の五文字ぐ〳〵ぞ〳〵ぞ〳〵ね
ぞう〳〵ぞ〳〵ぞ〳〵ぞ〳〵時八表白ぞ〳〵ぞ〳〵ぞ〳〵ぞ〳〵
らず　秘すべし　俱一句の内の字を初めぐ〳〵ぞ〳〵ぞ〳〵
をもてべ〳〵ぞ〳〵ぞ〳〵ぞ〳〵ぞ〳〵ぞ〳〵ぞ〳〵ぞ〳〵ぞ〳〵
ぞ〳〵ぞ〳〵ぞ〳〵ぞ〳〵ぞ〳〵ぞ〳〵ぞ〳〵ぞ〳〵ぞ〳〵ぞ〳〵
第三表白　天の〳〵ぞ〳〵ぞ〳〵ぞ〳〵ぞ〳〵ぞ〳〵ぞ〳〵ぞ〳〵

当順

腸

第三

右養白いうかも函丈の同坐座と腸ふそれ日折そふして
仕立ふちの第三八ものぐさうびくすうぐさ風情むし
養白腸第三すでに第三すく見ふとをとをとべる
同飛鳥養白　雅ぶ舞年ぞ年ぞのもてはやす船　如琴
腸　八月を城下とまうれ来る沼　京元
第三　酒のうさあい桜ようふれる　如泉
て鶴見くて第三片田舎ふして八面ふ家ふて第三

ふすふふ云やふふをふのれ　横順
養白　西とふふふれ養さそふ家の私　宣政
腸　ふふふをふのふ月のふ窓　昌孫
第三　ふらふく松の居よ寝ふし
飛鳥養白　西とふふ養よふそめ宮鶴　言水
腸　町八戸とふふとをめ入相　和及
第三　万歳ふふふ八野ふるぐふのふ　武孫
でと偶ふと不家ふふる人ふあれ見ふ来ふ作る見必
名別のふふ作ふでて第ふふふでふふでやらでふぐの顔ふ

問ひごとしてたえやらぬどもてとゝをゝ
ゝ世と生ゝ物ゝ
發句　作者不知
勝　同
第三
五月雨新月雲の絶ゆゝで　同
俳諧發句　さらゝと九ちやうゝとて流　大坂　金指
勝　同
第三
夕月よ咲こ米とゝ新稲　同
下蓋補風給よ出れ言ゝへで　同
あて爲ゝ出ゝおくて爲の中みゝらゝりゝとゝ發句の武
の時ハ人合ゝ爲ゝ爲ゝ出ゝ
ゝて通ひの武ゝ云てゝ
ゝて武ハ出ゝてゝ出ゝゝゝ絶ゝ
ハゝとの外吟味ゝゝ今ハゝ
發句　昌紀
勝　昌陰
第三
雲やゝ月ゝ紙ゝ面新
人ゝ月ゝ酒都ハ出ハ出ゝて　昌純
出發句おゝ月ゝて通ゝ武ゝて歳情ゝ武ゝ
ゝゝ○ハ不付發句ゝ第三ハ出ゝ
の月ぶゝゝ月ゝ武
俳諧發句　壱ゝ香ゝ武ゝ

脇　いまぞ遊子乃嫁しが似桜　同

第三　時ならぬや小袖きる○ぬぎすてて　同

右第三にてと云句乃○しは体字之留にてし句は白黒之
発句を彼此にてと分よハ此代句乃読続にもある○と云也
脇第三の留ぞならんと見るなり知りたしとの疑字とも云
る之但一字も○のかくうしくそうらんと続くハ二字とも
称と云之但第三にハ一字も○にてはとあるとも歌くハ
しくハ切字乃所にありらんとしても一字も○にあるも
有る之見んまゐらすまじ

発句　衛士の火ぞ人の心のとせよ都の波　紹尚

脇　いづ秋乃里も同じことよ　宗因

第三　夏衣かせとや雨乃ふれぬらん　玄的

俳諧発句　池かるたう川むくめ乃桜かな　鉄眼

脇　雲にまぎるる菓をとるも鳶　同

第三　猿の羽乃枕や袖ぬらん　同

右こともあるべきまりの但見おハしまさず　するとかられ
又発句はありある会所まで有りぬ

脇　かけうくひをてよ字ある年名　暑作

第三　折うかる花の雪ちる雪の　宗長
舵借発句　うゝゝゆゝや発とさせて年男　羽笠
脇　吸がさをうてうぐまんうん　越人
第三　今日の月も脇をうとる　同人
月花は発句と同じくよりて疑字下知の初句
重ねうゝ次第くりくはまと埋ぶかわるなん
○もゝゝはまを歌ふ舵借うも多くはあるものゝ
脇　立て新樹のちりうる氏　暑雨
第三　霜ひとゝぶ茅茶とる導師　祖白

誹諧発句　七宮や月ゝゝとひゝけて其姿　徳山
脇　年ゝゝひとくはは華仙作る者　琴山
第三　松樹中あとゝぶつゝ殺りの　角儀
もゝゝは額ゆはゝ代句ト八句ゝ句ゝ二つ名二つ兵八三字
うゝてまを歌ハ面をうゝ舵借ゝ七句ゝ

⑦ 四句の事

○右発句脇第三すべて詩のしゝく起承転結と續き来れ
つゝ発句ハ其所ゝ随ふ脇ハ其ゝ不必当所
第三ハ第ゝ句ゝ変ゝ句ゝ次ゝ句ゝ変ゝ

第三六句の仕すぐしとなれる一句立聞
なる是則(コレスナハチ)猶(スル)と相応句にとりてハ記義猶と續
いとも合(ガ)ハ俳(ツヲ)淡俗彼義句脇ハひとびいきつやくか
まあやうよする相第三四句ハ彼義句脇ハひとびと
はやうみとなるすくなるとうろくとせよ
とのすく片田舎の人云句ハ人ハ名と
くるよおりえくるもおりえれいはまうと道ま
案内なるまくりしいうあくりと名るくと一句に
句ハれとくるはくるぬ句ハくるべくたくハ名

文字義よるくるくるハ真ろうとうくくとせよこの
古人の云四句ハ毛髪よくせとくるくるやうすくそ
句ともハくるくるくるくるくるくる作る

第三

文字義句句　　鶯乃同じ　　義作者
　　片分りくくとひとりハくとも　　紹巴
俳諧第三　　まくくとくくく

雛猪第三　小性坪　天婦羅もぢ松の葉巻の

同四白め　おそばひぐらしくれくれ　伝徳

第三　矢と番とぐれなくじ松ちり　暑作者

竹角付白め　ちれ文人ちくしれ　紹巴

雛猪第三　菓のも暑いこきいっ文字　暑作者

同四白め　ひはそろくく雲草　うた　雲煙

第三　ちハ水ゆ　ちゆ　暑作者

この四白め　沢四ちれ四　昌心

雛猪第三　新酒と作るう四　暑作者

同四白め　勝とこれつく坂のつるるり　松運

ちハとくくこれぐるゆ沢四白めと　りと言るは沢ると

りハ作く沢百白百白ようるべ　くれれと毎へ

作りていやうハくもなくるゆ　ちゆ文酒ちゆ

てくくく

あく毋の第三九神とうこどりてもつ
ものうハ[illegible]
但第三のうとうと見合てさし合よたうれ[illegible]
し毛と白めよ云とくくうのごくくれ
ものうどハたしかとこるよハうしばかくのごくくの毋の
みてハとてうこ幽玄よりのもるなこ出て神ハれ長ハ白ハ
大ものれ初く第二ハて長ものく幽玄みとてうとこ作去
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
第三
白毋ハ
五白ハ
[illegible]
[illegible]
[illegible]

第三
四句め　五百仏若墨
五百らくし　昌也
紙箱第三
同四句め　五百仏古墨
同五句め　永文字
俤四句めらの　五百らくしさいせい
第三　五百仏ぐらこの月
四句め　五百仏古墨

五句めよ名　昌也
紙箱第三
同四句め　五百仏古墨
同五句め　永四宝
第三
四句め
五句めて名　昌也
紙箱第三
同四句め　五百仏古墨

日五白ノ

右ノ白ニ五ツ星ヲトリ〳〵ニトリ合ヒ五ツ星ノ横面ヲ

六白ノ内ニ人脇ノ〇ニ〇ニ折角ヲ

〇ニ〇ニ〇ニ

八首ハ古人四首ハ当世ノ人ぞ〻くと首ごゝろ
をとゝ〻ぬと八首ハ首ごゝろとゝ〻ぬ七首ハ八首ハ
よみあらためたる五首ハ四首ハ八十すぐるまひとゝ〻やうな
とゝ〻ぬもこゝろ〻ごと人合てこゝろ〻くとせゝのゝ
九首ハ十首ハ十首ハまでをやゝ〻ゝ山九首ハ十首
とゝ〻裏へゝゝゝて二首ハ十でのゝし但此九首ハ裏
ゝゝ紙ハ前首ハ首ハ首ハ首ハ首ハ首ハ首ハ首ハ首ハ首ハ
首ハ首を川とゝ〻ものべゝゝ
歌十首ハ神祇釈教恋雑常述懐ゝ舊ゝ哀傷

雜部又ハ四裏の部法前人の名故事ハ例ハ
ゝ〻ゝ〻ゝ〻

五畿七道の諸国にいづれの仏神にも月日の行事
とゝめるべきなり先住吉住吉は和哥の神山道まもるとて
諸人とゝろそなへをなすべし八幡八幡大神武内宿禰
八幡大菩薩は弓矢の神なり
四天王寺は聖徳太子の御建立なり
般若寺は文殊菩薩なり仏神八幡は無量無辺なり
んやうの神仏にそなへをきたるべき事なり
紙釈教等は法華経なり
そこひ目なる人は面とやもしまきもちゐるべし
のうちにかなるべきとて世間にとぼしき事
なるべし

よしとしくとゝ侍るべしとゝ見奉れとゝ
のわるいうてはいとくのすゝこの面くのゝとゝ
うとゝべし名聞ハ
しりぞけ彼岸ハ
但し彼岸ハ
自分自分自分ハ
ゝるあやまりの宗旨ハ
見ハ
ハ
ハ

[illegible]

(十) 古今作者次第不同

裏

撫子や 反古紙原の篠しゝ [illegible]
反古は [illegible] 紙の [illegible]
頂礼の [illegible] 野ゝ
養うの [illegible] 水車
[illegible] 家園
[illegible] 牡丹
紙屋倉や [illegible]

[illegible] 貞徳
[illegible] 重頼
[illegible]
[illegible] 家園
[illegible] 吟笑
[illegible] 万海

折れようの [illegible] 紙しゝ扇ゝ
[illegible] 汗や [illegible] 根義 [illegible]
[illegible] 竹の [illegible] 姑ゝ
歩行拾 [illegible] 息 [illegible] 衣 [illegible]
[illegible] 仏 [illegible]
[illegible] 紙の切
[illegible] 酒の [illegible]
[illegible] 道 [illegible]
鴻原や [illegible] 扇ゝ
若菜ゝ盃一つ 酸味 [illegible]

[illegible] 元
[illegible] 月
[illegible]
[illegible] 羅山
[illegible] 扇
[illegible] 宋卜
[illegible] 友也
[illegible] 友元
[illegible] 吟笑
伏陽 方白

[illegible]
[illegible]
口[illegible]
る[illegible]
[illegible]
[illegible]

右の代やうこの[illegible]
紅葉や実と物ゝなる風炉の姿
魂祭り婦人けしやうもせずうち
うち物人夫婦張せんとすまうと
石出て形見付しの内面ハ
なるまゝ襟ばくうふ四寸五分ほど
船よりは幕張の内面ハ
宝くらべ三月みてゝ蔵柴式
楷くんて男やうの奥の侍
うち掃や海のうへ人なる書こと

表の 夜元
伝嘉吉の書 蔵丑
伏陽 幽玄
伏陽 十人
表 幽泉
紀ノ 湖玄
表 林風
紀ノ 素考
蔵長 家月
摂津の国 別此

高やけこそ[illegible]の形
仮掃やくりてよきこと迷ハ帰走
体あくこしこれハ飯ハ[illegible]ハ
神付面使今よ
[illegible]
[illegible]ハ紅新うきあと式筆ハ
ひしこそ[illegible]や蔵野とそ[illegible]
絵ようけハ[illegible]ハ
[illegible]年の頭ようや麻ハ南
[illegible]西やこそ[illegible]ハ
人の乳[illegible]

摂津の国 吟笑
蔵長 国月
伏陽 知扇
摂津 西吟
表 西成
表 雲東
表 浪元
表 一[illegible]
表 友元
摂津の国 別此

元日八大海日出るまでいかなれば
なれ屋て海のよりの天はたち
日と合ひ石よりひつる胡蝶
尼寺や宿さ為めて一夜
ちる毛よ帰や野ん山まち雨
ぬるとりて、ゆう雨みゝしむ鬼瓦
後りゝ猿しゝ わゝ世よ私の長
めさの寺風の振りゝや東山
里き井や巻れ限り夕くゝ蛙
衣更ゝや花しゝ ゆくとも春山

丹波ゝ山 冷笑
大坂 甘露
伊丹 三吉
丹波ゝ山 此笑
大坂 万蝶
郡山 雷子
丹波ゝ山 冷笑
伏陽 接京
郡山 雷子
伏陽 雨面

もちさゝゆ ゆゝ
七草 女笑ひ
伊勢ゝ ゆゝ
栄の戸 女 弱少
元日や 孫
ちりひ出 ゆ
一遍ちゝ ゆ
出ゝゝ ゆ 明
明 ゝ

ひとれ地 ゆ
ゝ ゆ
ゝ 夢 墨
ゝ ゆ
人 青 ゆ
ゝ ゆ
ゝ ゆ
ゝ

のうるとまちまちなり

十二 或人問題歌之事

注云題歌百首或百五十首或百用題歌百二十首表十首表

近代多百首題歌之中に題歌ばかりを撰出し下句不敬の言葉を捨

聊不忌旧義而已 光又雖勝の説

是旧式連歌八句に題歌と題をかけ百句より用ひて

世又八表十句用ひる法 今新式ようりて表句ばかりに

用ひ中ニ不捨ことくなれどいまだ八句式句と

捨ぬものしるしなり

題歌八句ばかりなるのみ 俳諸 連歌 表十句 表八句

或八十句より百句又百句より百句ばかりなる歌十句より百句ばかりなる歌

分しかくてこれを題歌とする旧式より不捨八句ばかりなれ 新式より

ばかりなれば題歌旧式百句ばかりなれば

表八句 表十句

題歌の字あるべしてもよし

題歌の字上古八百句中不題之中に表八句計 表十句

近代 旧式 新式 旧式 八至第三句題歌

字斜 故 之 ことくなり 今八第三句題歌

とみてこれ中に表まで の句 表八句 題歌八一字と書て

拔發句と書附字の直賦物と字とをくらべかゝるべきなれ今の一巡例て添の賦物とをしるしるべ

雜物篇

山何　何路　何木　何人　何船　以上五篇くゝ用ひ

朝何　夕何　秋何　冬何　春何　夏何

蓬何　下何　秋何　千何　御何

何風　何水　何雲　何雨　何田　何草　何鳥

何る　何炎　何冬　何公　何衣　何文　何紙

此外蓬高賦物沿革数多出不宜者畧之

何世　千何　玉何　八上　新添

○又八一字と考る　二字通言　三字中畧　四字以下

畧わし　但一字露形賦物八近代も百首歌に毎交

点用ひ行ふ其外二字通言八下賦物八千首歌に歌

○一字考るゝ六　日と火　数と番　名と業　くのくに

○二字通言と云八　年と縄　夜と網　水と雨　くに

讀二字名と成る我字の類ゝ　こゝに通ス

○三字中畧と云八　蓬と紙　蒲と雨　荻と雁

ものこの三字訓くし字畧中一字名成二字元祢字なし
四字上下畧こゝハ　鶯概（ウクヒスノカヒ）　玉章（タマツサ）と松（マツ）　苗代（ナハシロ）　橋
ものこの字の例くし字畧上下二字名成二字祢字なし
山祖　月平　梨子　火去　梨子　数　番上　梨同之　名八字
梨子　菜八去　梨子　めけうられ　こゝ　今條　通
言中畧上下畧　名字　へうりハ　こゝ
しゝ　沢中　ゝ　不字　名　畧　上下畧　ゝ　四
鶯　うゝひとゝ　それと　概　これ　くゝ　ゝ
遠　ゝ　ゝ　不若　や　此沢　言　賦　名　元
不詠　ゝ　ゝ　名　元　祢　ど　数　ゝ　ゝ　ゝ　元　ハ　畧
二隅　ゝ　名　白　ゝ　ゝ

行路
行人
心行
納行
二字畧訓
二字連音
見ハ大原ニ

宗ハ　ゝ　ハ　ゝ　ハ　ゝ　ゝ　白　心路
絡　ゝ　ゝ　ゝ

此外三字中畧字と上下畧本白と引よ変準之題
又叢白八中ハ二字續の字よりなれば中ハ郭と
白八中よりと　心仮とくれ　卯ちとと　心仮と
附　俠とくと　朝仮とくれ　附日とくと　夕仮とくれ
武類いなどよりべし
又叢白ハ中の字よりハ字と添てれんりとる或ハ
横ことハ字付て　俄木ちとの字付て　仮木とくれ
又賦物よりハ字付てれとる或　柿頭と叢白ハ
仮る時よ賦物之仮　記会と白ハ中よりと　賦物之仮

などことくれ　豆類多りるべし　集て初るべし
又賦物の路　ぢとくれ白よ叢ハ字や叢の字る時よ　仮路　仮略
などくれる　或ハ白よ　ハ字の字る時よ　仮路　仮略
れ　又ハ賦物の白と　白と中よ　鳥　などくる時よ白
仮白仮　などくれ白の中よ　布　なる時　白仮　白落
などくれる　扨又賦物の国字を元　白の中よ　松
徳などくる時ハ　仮　手仮　などの類　白　中よ　松
ハる時ハ　良仮　良仮　などくと　新　て　吳の類
蕎式の　を欲よ表十白よ賦物とくるる　ハ路　白

まタテくのごとくこうごうてゝ但上賦下賦ハう
ごうとゝのあるゝ上賦ハ十句ゝ下賦ハ
八十句ゝもに同しくすべし　元稹詩ハ雜詩ハ薩婆式とそのび
行人ハ第二ゝ拉と字ゝ
山外古事　拙詩　又ハなどと叙句ハ繼ゝ下賦句
元やうハ句ゝ事ゝ　元ハ句ゝ
古来ゝ提叙句ハ元賦ハ二ツゝ
山桜ゝ叙句ハ人名字不平ハ取ゝ　桜人ゝ
ゝとゝゝ左ゝ準他之又三ツハゝ賦句ゝ同意

不踏ゝ行ゝ　行ゝ
二隅ゝ　ゝ
行路　白　山路ゝ
行人　山行　初行
一字高孤　二字逆音
見ゆゝ大原ゝ　白桜仰不見千句中ゝ

宗ふゝ　白ハ　山路ゝ
行ゝ　ゝ
山行　初行ゝ
一字高孤　二字逆音
見ゆゝ大原ゝ　白桜仰不見千句中ゝ

宗ふゝ　白ハ　山路ゝ
行ゝ　ゝ
山行　初行ゝ
一字高孤　二字逆音
見ゆゝ大原ゝ　白桜仰不見千句中ゝ

此外三字中間に字の上下間に変準と云
又変白の中の二字續の字なれば書て或は新字と
白の中まると こうとゝ九 却本とまると こうとゝ九
「脇」後とまると 朝仍とゝ九 附日とまると 夕仍とゝ九
此類いろ〳〵あるべし
又変白の中の二字の内一字を濃て新字中とまる或は
機 こゝとゝ字付て 機本 の字付て 仍本とゝ九
又賦物の内一字付て 柿頭と変白
いつる時は賦物之仍 記念 白の中 まると 賦物之仍

〳〵準ずるなれば賦物とゝ九よりゝ
又南かどゝいふゝ後 鄰塔 賦物と九ゝ 黄紙 右眞虫
わとゝ 塔 日 て 虫 ば 祝 鄰塔 今 新 祝 鄰
と 今 て ゝ 別 ゝ れ 為 ゝ 稱 ゝ 此 別 ゝ 変 ゝ 鄰
塔 ゝ 二字 と 稱 ゝ る 此 鄰塔 又 ゝ 紙 乃 紙 鄰塔 新
それは 彼夢想 懷舊 經文 名号 追号 真時は
変想 ゝ 鄰塔 懷舊 鄰塔 ゝ 鄰塔 ゝ 二字
稱 ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ 鄰塔 ゝ 二字
鄰塔 賦物 ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ 同白 ゝ 白 ゝ
ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ 袁紙 初れ ゝ 白 ゝ 若連

歌所集うの部雛猫と題りくつバ雛猫こゝを第一と
も下事事事しくらく
若くくくれ同者と結ぐそ人してこゝろ人いさ席
ゝ随ひく賦物ら下あくぶべくべ又雛猫こゝを歌こ
猫仮ゝうてもくるし叩くゝ歩雛猫も出せ和歌のこ
けくゝ厳あれば厳よりつぐこゝ事とのれくゝゲ意地と
こゝてんとそ文ゝりくゝりて乱意ゲ毋ゝこ用猫し
あくゝ文すべくゝ次第て賦物の字るど用意ゝしらゝハ
くゝバとこゝやうゝ出とべくゝむき人こる伝ゝりら猫

我もりくべよりゝ初雛猫こ賦物の字仮連歌のぐく
五ケ次下小賦ゝと立こゝ文ゝ文ゝりくべくゝ次義句ゝ猫ハ
てゝぐくゝ奥こる文字とれぐさるゝやゝ席ゝゝ
こ歌ゝぐくゝの賦物とらゝりくべそれとゝもそひくべくゝ次
も雛猫ハ連こらとゝこゝこゝこ歌のぐくゝ九ハ法異こ
雛猫ゝ賦物字ゝ云ハ或ハ連歌こ松唐玄ゝぐくこゝ
雛猫ゝハ節玄赤玄ぐくゝ九べくゝハこ歌こ渡紅
鞠紅ぐくゝ云こ錬紅菓紅ゝ雛猫こ九べくゝ除ハ
三山進こ但又一字こ書歌ゝこ九ハ言のこ歌ゝこ九二字

音こ下ハ千白連歌くさ多くでハらくぬそ紙と千白
よ三ぬくと丸ハ方一多分二ぬこ雛諸よとのて八百白紙ぬと
三字中一署ぬでハらべくしハ白よ及てハ二ぬ三ぬまでと
ろくくようくて丸ぬ一む紙諸一無こ犯又賦物の文字ぬ
琴ハごくく五ケ小賦ぬも雛諸字こて定め無クをやと
業ぬ中ハ字ぬまでら紙諸よ文字と定めぬとこを文廣くて
よ一無ぬまてにやこぬむ一上仁仁下一字ぬ孔三字ぬ
書三字中一署下署上署四字ぬ上下署中二字署五字ぬ上中
下署中三字署一字ぬ備書三字除篇除篇目ぬ他係

ハ小次位意弱く丸ぬもみてくりこれくと百白五十白こ
紙諸ぬハりハれくる紙ハ常ハ賦物仁ありとく桑ハ
白ぬ隨ひくくこと無こ文字と丸べくしハ丸ぬ歌ぬくく二ハ
ぬ遠ぬ一三ハぬ無ハくぬと無と無とべくしハ白ぬ歌
ハ不一ぬくくと丸やうハぬくと丸てこくよ白と八よ及ハ丸ぬ
一字露歌ハ寢と書ハ丸二字遠書ハ紙と葛と丸
新こ三字下署ハ一ハと人と丸と上署ハ楊と紙と丸
中署ハ繪と麿くと丸數こ仁ぬ四字上下署中二字署
五字こ中下署中三字署ぬハ準て知くくハ

一字備ハ化ヲひゑ〻白みる時ハ化乃字と備ル
て武と書ルしむ白ハ中の音と二字備ル一字ハ訓
ハ訓ラ音と備ルと也訓ラ訓ラ音と二字
俗篇ハ音と訓ハ白乃中ハ編と云字ハ白ハ篇と
涼ヲ云ハ白ハ雪ハ白ハ松ハ白ハ明ハ
ら月ハ白なる也 紫冠白カンムリ 陳皆ハ白ハ
ハ白ハ白乃中ハ無字ハ白ハ他 他ハ白ハ
澄て云ハ白ハ 松と云ハ白ハ 此ハ白ハ
ハ白ハ白ハ白ハ白ハ白ハ白ハ白ハ白ハ

ハ白乃白の時ハ白ハ白ハ白ハ白ハ白ハ白ハ
此外也歌ハ白ハ白ハ白ハ白ハ白ハ白ハ白ハ

十四 本式連歌乃変毎俳諧ハ移ル

頃日俳諧ハ本式と云事ハ
ハ白ハ白ハ白ハ白ハ白ハ白ハ白ハ白ハ
ハ白ハ白ハ白ハ白ハ白ハ白ハ白ハ白ハ
ハ白ハ白ハ白ハ白ハ白ハ白ハ白ハ白ハ
ハ白ハ白ハ白ハ白ハ白ハ白ハ白ハ白ハ
ハ白ハ白ハ白ハ白ハ白ハ白ハ白ハ白ハ
ハ白ハ白ハ白ハ白ハ白ハ白ハ白ハ白ハ

この射〳〵ての式と本式とのことゝ有り新式と云ふ式
同京山法水寺より始りうつて今ことゝ式同と用ひらるゝの
こと是ひとり此式の舊式なりと云伝ふ法水寺に於ては今より
用ひらるゝ少なくべし〳〵永禄八年兵式六段の書つ流布
奥ひとり伝り紹巴ものゝ出度ものゝ遠侍共ものゝ鞠会ものゝ
ぶ〳〵式八建治二年 任官多地 於禁会義谷為相卿作と
ものゝ同時又中納言為義卿作ものゝと云ふ番光園摂
政良基公ものゝ 應安六年より改め書加へ作ものゝと新式と云
建治二年より無京六年まで ものゝ
廿七年よりのこる

宗通宗綱より相傳〳〵作ひて亭徳元年 故白河院 より書加へ
給ふと造加と号ものゝ 亭安六年より亭治元年ものゝ
八十一年ものゝ
勅ものゝ白河院ものゝ 故白河院 ものゝ
書加へ作ものゝと新式と号ものゝ亭治元年より文嘉元年まで
七十年ものゝ
毛今より新式今案して用ひらるゝ但兵式ものゝ名ものゝ
説と暗し作ものゝ事なり
ものゝ作ものゝ文亀元年ものゝ
元禄十一年まで元百九十八年ものゝ建治二年ものゝ元禄十
年まで四百廿三年ものゝ

連歌旧式しな

○初句表十句毎句会数句賦句 貴百句俱会一説至難三

○名處不厭作表 ○名處与名處隔五句 ツヽミ八三句

同季隔五句中無他季則不為之 連歌二句モ亦不抱ノハ

○月花松 毎度 同作 烟 各隔十句 第一ハ二句

○景物不可連続三句 ○景物与景物隔二句 但る歌ハ

ツヽミノ如シ

○懸物と懸物隔二句 ツヽミ三句 ○鷹 鍵 物 草 反 同 句 ムカヒ合ヒ煙又

ハ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ

○樹 檜 原 関 後 俱 為 ヒ 類 ○名殘ノ裏六句

○花八句 此外八如應安新式 烟 寄 ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ

○名處不厭作表 ○名所と名所不

但 此の所ハ五句也 ツヽミハ第三句

○同季隔五句 中 ニ 四 ヒ 他ノ季則ハ不為之 連歌ニ不抱

但常連歌ハ七句去ヒ者ノ紙階ヒハ五句ヒ

定め作ヒハ同季三句去ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ

と入ヒ去ヒ三句ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ

別也 歌ヒ寄 ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ

用 ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ ヒ

月花 毎度 同作 烟 各隔七句 第一ノ句ハ

烟ハ七句去ヒ 隔 毎度 同作

中式ハ十句ヒ 又当ノ紙階ヒハ花ハ五句去ヒ ヒハ各別

こゝ変かゝ[illegible]
○乾いみ[illegible]
表裏[illegible]
[illegible]
やう[illegible]
[illegible]
[illegible]

こ変かとこ言ふ歌

○花いみまくこ〳〵○一本ずすべ〳〵と同わうるも
表裏うるとも表うるとも
みちわうれば沙弥も行くうりて
やうに〳〵と同俱也歌物式おくいたぬ
かれど雑語又表引あくこ定ずして年武
とうりめ〳〵るまづ者の表連年よ初わく
表して第四句不二愛色ぐ〳〵の面白こてもる
ものれば雑語も又同こうるべ雑語して初われ表乃

花ハあくてもいつべ法常ハ也歌雑語ハ名ハの裏よ
りて月ハいりり五月ハ法ハ直〳〵ばべ
○景物不平仕漬三句
○隆ハと隆物開二句 紙者ハ三句ハ三句ハ雑語の
ぐ〳〵也是又男捨又系改
○鶴物○草と系ハ同物 紙遠そひよ系ハ
○桂○檜原○関○猿俗ハ
○名殘ノ裏六句
山ハ春ハ雑語又男ハ法ハ歌ハ用べ〳〵

十六 貳人同十解と章一妻帯五解五種の解百人一首の内
章一、六十解を五解と倶五解と十解八中しるさ
ぬぐるよ分れ出るうわこみてしろ又八十解ともいつる色立
うとうれ数とうるはうしばめ大数とうく百名自ろう
とけのしかるを歌うとうて解とうつて多ら作るとそ
ろ紙を章一八十解と分しく以八解をとドかるみや
運歌みも十解ばうと作くるしく家柳ドかく一題意日
も数と別うんハ野。不可いるとも洗濯してもうつりめ
ろうんうとうりよあしくびハ数十解五解と分ちかくびを
分とでかるべうるやうとれ数ろ多ろ同ろんハ
ようとうしくびと洗濯ハ別て慶ろ姿うろうるうとひうる
意別めしるる微ろしきかうとて初む中
ひかるり添不絶ひんるるハ心むしも辛心をえるろ
人くもをこひしろ作人百ろうりめをけうこうや表ハ
初定めくハ道ろ十解ハ内ハづまろう五数いろんるやと
清ノ尋ろを第るハ寒蓮有家家冬雅経ハ下ハ遠を解
と完一 ドとれしとを掃改後成通具定家ハ有ろ解と
ろ貴ドを極ろくハ有ハ解とをハかるれしろくハの

うし出てあり平我が主歌舞伎俳諧とるまこはこれをば
宮家卿ハ往古京の上流にくまなく知れる二十せ三
十せハかぐやうまやかりうあるを房をば代弁とうるおひて
こと後面やうある拵一ぬりの拵に裏板有い拵
しもむこうりうえうる拵長さる拵痩さうこ拵とまるを
び見すとうこはのりて強力拵黒拵とうべとあん
彼卿ハ黒らりひしぐ拵と弄り代中道しり絵つり
これりもとくいうる皆二るうそうつくいてあ人の
多るりりうへしるる拵しるるあん当れ拵

やりぐこうそうまそのどややるうこのひるる弄と弄
道こ大ろん得こる人多弄こりりこあるもん此道花
こ弄とるりこぐでうまりぐ当りりるこ古今集りもこ実
ハ皆落真ひひこりうこぐこりりとりくりりこれ絵こあり
りこもこ大ひ○えんとりこするハ弄と知りるる
かうこべこうこれハ彼卿文後成卿るこ部こ平拵
まぐでやりこるるはりりるりりこうこうこるどど
拵りこ拵、道りるまれりりる十代拵りる書こる
てえんるるりとうれてるるるるやうこりハ弄

あの人もいろいろ面白きことありしかど
まづ略して、とうへ行くべきやと問はるるに、
に後成り給へるいとしくも哀れなる事
と思ひて、うちもくちひらひて、
うふうふとそれとなくあげきなりつべしあらむ
ハ道とて肉とのこりあり面白と書とえくつ
面の手ならやまもしきるの毎くこれども八千の
今しり学びてうちさべしなるまちどうこれ
八書とえくるを第一えとの時ひいくるもの

等乃紀いろはもでもしもしく味ひてさらに
道目入ることおくに神とうとうとすぐ
歌をうるべし結くいかせてうるべうるすし
ぐうとうとえんなるとえハ源氏物語をの物語又
ぐうきとしくまーしきもすぐうの伝いよ屋
むれ伝ハやうしくやはしんさ中ぐうとれと
用ハあるべおすしうよりつの秋ずてむ伝ハ
本体をんなの意とえ白よ愛さそ風と月ら後ありて
付うりいとは悩んこうくく味ひみるべし

たやう連歌八十韻と定めこれをとこゝに
もくろみ是を準し三吟紙衾もくろみ

紙衾連歌

袖とゝ所に居八三ヶ所也　順光

○春日八つくゝ人ゐるゆゑをゝみ

ゝとに行くゝとりひゝ奥ゆ

○かゝるこゝろとゝふひとりぞゝびとゝぶ栄居　教海

故郷とゐるまて人の寝ゝて

○秋ゝく風よゝろとゝりゝ　教海

鎌倉よ

長三四神

○春雨より四ゐるゝゝびのゝまゝゐて　順光

ゆゝまゝゝまゝをゝゝゆゝ知ゝ飛ゝ

○わゝれゝきゝゝふる根や二ゝとも　関西

日とゐゝくゝゝゝと栄の戸新酒

○洗やゝま八面ゝゝゝれゝる住居ゐゝし　信照

空ゝくゝ間ゝゝ寄ゝゝゝゝ

紙衾

△八十の姥酒汲て台のさゝまぐりよ　永　如泉

扶桑の山の色ゝ夕ぐれ

○行くて大川三十八里もおもし　秋風

ゆしらぬ初しぐれ　鮎ざかり川

○初しぐれ津のゝ方は雲たて　教風

見ぬ人の陸くるひよりやさん

○秋の夜八世の姫の夕ぐれ　信之

ひらゝゝときいらるゝしらん

△風と雲水及て暑さ日ざかりよ　永　和及

弾指八

水やのぐりうてこゝろとゝまる　信照

○夏ごとの小ぶくろ山の秋

こゝぞしら人の数そしらくなき

○このくさまこゝ八ツの月うつて　教海

こゝ落ゝゝこゝとよ向てこゝ鳥

○こゝげが居八そのゝこゝ山ま　三乃

泉水源ゝ隈のうゝ菊

△唐つ（カラモ）あちこゝ色蓋ま八松ひゝて　永　章作

月ゝ花もゝろ水ゝ水ゝ

懐紙

弾指八

廉作

○三熊野の山のこずえ　　之房

泉源くく雲間ぞなく

○信吉の滝の面白きえて　　教房

姿る雨もさつきの雲なれば

○こけやいわうれ野とそうん　　信照

百日の養白髪の忘のう

△信れば絶くく白糸の滝　　永之

末末よりの滝煙の白雪

○山の陽の雪ふりしき花の

花の盛　　信照

○ぞくけくも世とのぐれめる

○こぐりみのちこふとぐりかう松て　　之房

さらくこの雪ふるくふるゆう

○煙ものこと嵐の唐日人住く　　教房

こそと雪よりこの方の瀑

△蠅をくてうこく称やと紀宋家守　　之房

人ものこの道ぐうの色

○乗の住ものりく抜ぞ紀

ふるぶ住ぞやうもん　　之房

○身と捨る業火焚やゝ煙　信照

よも雨ふれかしと思ふやうなて

○舟よせぬまゝ水とこそ〳〵くめ　吹芝

柔ぶ笛ゝと鳴ふるうら

△鳥屋と出て鷹ふと人なて　永芝

張れいろは袖乃うち枕なぬ

○行ゆくよりてはうさ忘の立田川　信照

まり日数とゞまるうそ忘まうら

ゆすぐと云〳〵命といふ水会　教海

一節体

船猪ゝ

彼猪ゝ

冥吉翁

雨野ふそ水ぬ〳〵と漬〳〵森と気

いふ〳〵ぶ〳〵ふ〳〵ふ〳〵ふ

○絶えとおぐるかを川の水　芳方

つまづくと桑の枝のうら　英角

○うらの流れよ頼となぐさうじ

弓矢そ国の出さめとふる　国乃

○かぐし立姫の面とりかげて

力おぐしるとこゆるづぐさ　救海

○これで此神代久しく宮柏

金おとくい来でみづうさ　十佛

○老れば力髪のまとれて

○但此外 紀くさ伝 廻雪伝は 幽玄ちうしかうまこ出る餘語

△その頃見の月のうつれるうまと　桃雪

おかれ遠くうるべきうまや定家卿と 廻雪伝とうるく

寄乃中よ落ぎの月と苔しおしたりの花言風

よあぐよかなしうして初八月よ面白き面れのうく

ひそふうん寄と紀やこ廻雪の伝とうべうて後成卿も

ドうれしうとぐ乃ぬひける花又古人の紀ったい遠八廻雪

伝と中ある公とうて修行しるべうやいづま

の白めのとうとうぐいす姿うるはしんどを幽玄とお清行るよ
大やうれぬちりぬへうと遥てうりり行るう古人の幽玄
とも丸まるハツとこた用とせてうまや大こうの人の心えるる
あ姿ハのやさこぐらこうれ心のえんるるハ人ぐこと遥
人々姿と鶴つ〳〵猪人人ますせの紙ちさめ行るハ人ある
ぐしこうとどくこんこうとうおうひくこうこうハ行うなぐ
身姿ハ五人のあやりよ水とうけこうこくふく〳〵元幽
玄体と云〳〵也
又云山体　白体　沈海体　長高体と云〳〵
ちしかれ出〳〵る姿うるぐしく〳〵山長高き体と云ハ彼帰と体

ら体〳〵共ハ生潮のうはひうるやぐいまうれぬとが
こと明し餐白ゑ〳〵大ひひもうるくんやうよとうるくこと
帰りとと体こうりりるうぐいさうや古人の語とりるん
餐白ハ幸ハ生ゆうの新ゑ〳〵ハ体とハたやうよりるく
とこしのびこ物ものうぐしこれぐも体と撰集ゑとハ
こそこうゑりりくれうる園ゑ平前貴ゑ体ハりとりりくこうゑ
三海く氏風情ハ色ハこうこハりるまりの餐白又同し沈海体ハ
こうこうり彼光ハ頭うて日ハ平〳〵風情ハ共ひりらこうすりれ
ハこうこのこハりりりしんとりこうりるぐしく故よ体と
いろくこよ空ハ平体りるぐしこ云ハ体ハ彼長高き

中ごろ[illegible]風雅と云めり[illegible]すべし[illegible]家
郷[illegible]量天性なるべし[illegible]ん[illegible]
あべらこそ[illegible]海[illegible]とふ[illegible]
[illegible]
[illegible]

連歌俳諧ともむ第一とする所なり
こゝろ句ゝ詞と事とこゝろ
らくだとこゝろ句りくとた
あるに正道とていあるまじ
なるべ者れど別て正道は邪
るべしゝ人は白らを
こゝぐるとあるを
こゝろべしゝ
こゝそ中るやうにつべ
○蘆俳しり 本直俳 毛詩蘆俳 本歌俳 俳俳

やうり実家卿此蘆俳
俳ひとを
俳ひとの
ゝ本直ハ
紀蘆ハ
俳ハ
ら風
風情
○白俳
風のる
名よ

俳ハ
ハ
俳ハ
俳ハ
俳

一ゐひとつ　三ノ物とえてくるぐこと　只き人ひとりわれ
ざまのごとくにやうにのくるあるべ　毛ホ　ハ印若ニ本望
ちるべし　初心の及ばざる事　ものや

○事　仲　授辭仲　凡授辭をハ如
うに仏のゆもあく云ハおとをかとうこと　ハ意う
ゐ　ゐてくうべとるぐやうにしてせて　ぬれうのハうべ
さ白ちるべし　秀逸　授辭仲　ゐ以通ひてハ解
ゐちうれるとうるべし　見授仲ハ面白き面げ間
よゐるぐごとくハ数しやゐ熟て初つまりうとうぐち
とぐとゐくちるるる白ホ　ちうゐをうとぐ

○節仲　定家卿　洗仲　とりくぬひべしべみうべ授
ちうこんちうを時くまぐしそ世ハ現素熟ハ人ま
ちうしゐよ筆なるべし　一節と着ハ一首ハちひよ
つとて着尾くちゐかせ仲しハ隨分秀逸ハ深ハ
ゐれどんとえぐして正節とまうんぐ　せハ新諸ま
やをうべうこのゐやハをとれ彼十佛白ま剛明をお
野ま優く素とれとち白ま羅彼深ちハをうこれ
ゐ　ゐ　と素熟ハうるぐ　ゐび仲ちべうこ
ちうこ白ぐ出べうゐうちるべしまぬひべ
○寓　古仲　定家卿　洗仲と初づひ古ちうて近ゐの寄と

文まみえなげの性よりるうち
都とよべどもそれは俗今しかるに
なるすべくあるべきの別あるべき
て氣とそていさもの風俗とのべ月とそていは長
年ことをもとつまるかりくくまれそしんやちう
つぬ分初るべしの字のほしうとしてそこれ不こう流の
まうかるべしかとまれ不破の関食代板ひとしら秋が
しあるいそで畑の風は京橋魚市弁慶八字しそいお
そうしられと博能て人のあひけるこそ今の人場は
通ひ行れば右きあべしとうしとめるとのもとうのようるうち

白い御ひどしあるやすまるべしるべしするやうるかること
まくこうしるものもこのもしうとこうしと宝ら屋く
ととりしひるとあるしとすしるるはは能代人ば天自様とけのべ
おすれのとはるひはめべすしるるはは虚空りせば
くらいいうるいるの茂みのの中ゆるるやうるいるす
うそ相しそ右き新しうるこうは能不能とと用しべ者
絶るれ此写右伴とこうはとと分てうるべしべ右キ梁いうる
みべしう音別の姫月るるべうるるすうるるべ右詰者新小面
うるるるひるるる白い京ゆうるるるるる長るるくるるるるる
○強伴　樹鬼伴　定家卿い書とあべして餘信とるるれ

ある歟之但此わとれてるとこ不ゆ公ゆくハ先ゆどの高
あるゝハ者れどそ秋ゆハあゝ骨髓乃風とと尊ゆとるる
者とのゝゝゝそ者ゆるる人此俳と茶てらゝ大
裏大極殿のまる庭よひゝゝ者ゆてもうてめやうれを
ゝゝあゝゝそ又彼ゆ故郷に有毎燈風吹弦鐘無人暮
雨縄　おゝゝひ出よ旅ゆ白ゆ言乃表ゆゝゝゝのゝ乃ゆゝれ
係乃心向ゆこゝゝと十俳の白羅拉俳ゆ入ゆゝゝゝで舞長
ゆ事ゝ此表俳と定ゆ者ゆ別て表ゆとゆゝゝゝれば此
遠ハ兵面ゝゝと茅とゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]も別人と婚し不[illegible]と[illegible]是不宜[illegible]人間十
四年十月時とかや故実原十如院前内府二北宗[illegible]宗[illegible]
揚井ノ元信ふと五[illegible]内の嘉楽と四[illegible]ふ[illegible]九内
[illegible]裏神と[illegible]作る事[illegible]個是ハ彼哥の十[illegible]戒[illegible]
太のかゝしばらくのごとく[illegible]哥の作よ
[illegible]して別人事とハ後退のかゝり[illegible]
[illegible]知[illegible]ごとくよ長[illegible]五[illegible]内どと少[illegible]

おな　これはりと[illegible]ばと[illegible]ハせん

[illegible]人作　賤[illegible]しとの[illegible]

宗張

おな　雲[illegible]唱[illegible]の而[illegible]夕[illegible]れ

[illegible]作　暗るの[illegible]所[illegible]

同

[illegible]　[illegible]時ハ[illegible]別と[illegible]

宗長

[illegible]　[illegible]

元信

[illegible]作　[illegible]

宗張

[illegible]　[illegible]

おな　[illegible]

種類作　[illegible]

同

[illegible]作　[illegible]

おな　[illegible]

宗長

拾遺作
文治年作ミエ
はるの作

ふるのごとよ踏みくるやこの雪　宗祇
はるむかへ春は雲のごとくあり　之作

おなし　たのむひとひ春の雨永

ふん世ミ作　扇箱をみくもとなほるへて　宗祇

おなし　たのもをぬくしてこそけ

二条ミ年作

みちもなく髪とさくて　宗長

おなし　水底　ふいをもらはら

二条ミ年作　ふきへをもをはらへ神はなく　同

おなし　ふるものなくいらく雪

一条作

風よふきて　移る書　宗祇

陽年作

移ろふ　ひいなくなるみち　宗長

おなし　ふるもしをのこ

服年作

ふるもの　山を出る　神はなの　之作

おなし　打ちなとも　ふ紙　雪を雪

紙法作

いなもふ風　知れ　知よりとかひく　宗祇

野年作
ふとしとも年ミ

たのしとたはのもれ　ふれや　宗長

おなし　ふるもの　ふるもふ　雨ふけハ打

吟年作

三のもの　雪ふる　奥ふ　雪ふて　之作

おなじ　[illegible]　文作

[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]　[illegible]　

古乃内よりは道々大秘書にて[illegible]作[illegible]
ハ々毎よりは心とかけて[illegible]

九 六義之事

風賦比興雅頌八哥乃六根とも云へ今集の六義の事
貫之の序にて書りうけ給もこれ乃遠ひめ[illegible]
あや公任卿風の所あハ是非の詞とそ[illegible]
賦とそ[illegible]めらして比 興 雅 頌 [illegible]
[illegible]ひよりて[illegible]哥とそ[illegible]

よハ凡六義乃根ハ毛詩にこれりとそ[illegible]
被見てそ[illegible]ひとそ[illegible]
大凡じくさハ六種之六義と毛詩よハ風雅頌の三篇賦
比興の三ハ神とし知るよ和哥ハ[illegible]
[illegible]六義皆掛とそ[illegible]
[illegible]毛詩乃心とひ[illegible]
[illegible]公任卿之[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

○賦

[illegible]

陳注云書ハいへりんと二倫よりでまし[illegible]
云のかの兵策ハ歌れんとにしてたらよ云[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

出る日ハ[illegible]方しりとみまりより　仙

[illegible]

[illegible]

[illegible]

○汚

おびゝ〳〵すなわち物のるゝ類とれんく相よりとるんくかりたるの
ゆゝ云ふ人ほてんうるゝそれ人おくゝべやりれやゝ〳〵のるほこつ
いうゝゝびゝ〳〵てゆゝ〳〵てらひくゝびるう「きんぼ」ほこほわとうて
ねゝほてるゝくゝ世俗よる方とうゝゝうゝとこよ同じ「ふくゝ」又貫之
引字とうるよ彼「書よけゝこれ雲のおこているべばんんわが男
と書よおびゝ〳〵起と重よおうゝたる家見ちゝとあるゝゝうゝとの
ほのうゝうや宮家の流ゝゝたゝゝべ字ゝくの語ゝゝそもゝて
ふゝゝワゝまうゝ物ゝとゝびゝてゝうゝべゝ心敬俗部の川白ふ

不紅葉廛にまゝゝる宮辰小

見と彼起と書よゝゝてるゝとゝうて敬よ慶相ゝゝこ
ゝとゝうて引ゝよせゝ社ゝるみや見ち旅宿よへて
見ありやあゝ人間出家門の表　遠え
見則二ゝ日おゝゝてるこ不ふゝ表の表ゝゝせ変ぎねふ

と御代の物語万代よたゝゝべこ類ひとゝうてらひゝびゝ
へゝるゝべゝ但見ちい古人ゝゝられてゝよ題ゝて引ゝ
彼類とゝうてゝよゝとゝる人ゝたゝゝゝるゝゝゝこ不ゝうへけゝべ
ゝこもゝおゝこゝど社ゝからと奥乃不よやべゝ

○奥

たゝゝ人ゝ字たゝゝこゝ一ゝとゝんてゝこゝとゝたゝゝるし
見宛文ゝゝまゝゝたゝゝ人ゝ字ゝよゝうゝるゝいゝるゝとゝこよ
ゝ人ゝ字ゝゝゝたゝゝ字ゝゝゝ

あるとかゝるはなにかどしてたゝくとしてこゝに嫗於媚諛と
云人とゝぐまうひるる諛へるるはいろそれとゝぐの
あるゝ宝家卿は奥よ二ヶ所ある雲奥節奥之雲奥
はなにれ家が奥ゝしるゝ奇ゝ節奥は四月の杉節よ通
ひて奥にるるゝとゝたゝゝるゝとゝべゝゝゝ畢
意は風は奥ゝ後のゝとおゝふよゝよ以通ひてゝ奥
別ゝゝ風はゝゝぐよゝれゝおゝひゝゝゝとゝれよ以ゝ
ぬ物ゝてゝ物よゝゝゝぬやゝゝよゝれゝゝゝゝゝする風
大やゝゝれゝゝれゝ別合ゝてゝ奥は物ゝ物よ

又物ゝゝ物ゝゝゝゝゝ

蝶や 捐 切ル蟬ノ殼 京 貞陽

折まうせるたゝかとこゝろぐ見おやうあひはらんゝ古人
の詩句をこゝろみるそれがそれよりまさりて詩句
個性の不ゝそもゝべあるうあれどもよかつりて詩句
の面ぐゝかゝるこゝろをこゝろ者よりあるの句ごとい古人のんよ
倍ひてのおもし般詩句ゝ

ゝ 北よりゝゝ敵貝のごとゝ二ツ星

貞 あゝあや敵ところる貝ゆゝ星

詩の句二星と敵貝よりまもゝゝて云と敵貝のごとゝ

付ゝるゝとゝゝゝとゝ云べゝゝんよりゝあひはらんゝ詩
ノ句ゝゝゝ敵ゝゝゝ貝ゝ二ツと沓敵貝のゝとゝ
て二ツと云縁よりすぐりて四ゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

の数白ゝは十二ゝの玉よりにおんと生てこちらうと
又蓋指の白ゝとらくで

地めるひ法ゝや奥ゆゝまで

ふるゝは法宝ゝてゝおゝこうひ羽よ法つゝこうゝ法ゝとゝうゝや
の頌 いゝゝひ奇 毛持ゝよゝ云頌ハ表威德称容政成功而告神明也とゝう
又頌ハ誦ゝ 稱賛ゝ表ゝ いゝゝハ別ひゝゝゝ故頌といゝゝ奇ゝとゝ云又
宗祇云頌ハ容ゝ 誦ゝ容ハ王者の威德をゝこうゝ出ゝてゝひゝゝ誦
ゝゝゝひゝゝゝゝゝゝひゝゝゝてゝゝゝゝゝ頌の詩ハ宗蘭ゝ誦ゝて祇よゝゝ
ゝゝ世ゝとゝゝゝて祇よ者ゝゝゝゝゝゝ

言はばそれぞれとてのりて善悪さまざまとあるほんとうの胸
中をもて病ひを吐出すとてのごとく所にて情を注非つかうへ
向くと表おもてうるはしく善悪ほうまと分きまて出ること分きま
てい悪とをうぞけ善よりとぐくあるべし「宗書」
邪見落聚とうていたい如実相と観ずるを姫のうつ
りもの無いを為物変相とるーひ奇と深し教白
と得風賦法眼雅頌乃六義とたどりて六道流迴
のりひとわるまるおぞうーこゆうれしし「釈右今」
理世撫民ーー鴻徽賞心楽事ーー亀鑑者ーいるる

奇とうとりるーー世と合ひ民とるげるというすわるべん
民共通よ分ーせんー人ハ野蛮時ーうーうーうるみて生老病
死のいと知ーー心海草ーまれーーみとるくて天心よ
和合ーーるー人民和和をるのをとりいーーるーを道恵
まるーーるいでっ回とやりーーざ民とおるひつーーる
ざるべおるーーー経信卿ハ和奇ハ原道乃浸善提と
るーひる道とのるくつて菩南ハ道ハ正恵とーーるれてハ
正て汁事ーー拝ーを神ーー忠仏意ハて細文ーるべーーー

元 篇序題曲流之事

○篇序題曲流と云事ノ五ツハ言葉ノ五体ノ六義ハ和歌
の六根なり此二ツとたゞわ明めゆくべき万代道の序破急
諸体諸篇序正流通因縁譬喩の有よ思ひ合すべきなり
○篇ハ五文字三人と長作しんよいまで ○序ハ第二ノ句ハ次第などと行ふ
たゞすべき事ゆゑしなかさねし のさねうべし
○題ハ第三ノ句ハ事と云ふる ○曲ハ第四ノ句こと責続と云ふ
ふしのさねし
○流ハ第五ノ句いとなどもて出るなどゝ〳〵ぞ
右とこれまで流れどん歌備部の詞を見ればこと
ばよりことを見とゝひて又論と云
○篇 ○序 ○題 ○曲 造立て長れ歌出まゝ云ふ
ばへと造りなる
○流 成就してうりなる
されば歌ノ道ハ五ツとめゝてうちあつて作りゆくと云ふ仕
方ノ子ゆゑて五文字ノ中に歌ノ庭ノ句まで此五ツの者とをる
ことゝ思ふ事ノ下に歌ノ道する事ゆゑ也歌ノ道ノ
ものと同よ先逆造り作りしハ此事 連歌ハ宮ノ
俗令下の句曲流のこゝろ ○篇序題ハ
云ふ心とゝ ○ノ句曲流の心ばへ ○篇序
歌よりこゝ云ふ事とゝべ〳〵とぞ

を歌引白羅のひとひとつゝあれ　教静

○月おる待場れ書の朝ぐも

入へしる面とみゝとをり

○うゝびおれ白よ伏柳の枝るかな　吉乃

水とけてこ書ハよりかり

○ちりかる野沢の紅ノ下巌　順光

此二句ハ第白れ下の白よ曲のゝ入りてこゝゝできゝ紅

白と赤ようけゝく付白と篇序頭どりとして第白と

こゝりとゝいゝこゝとおゝ白てこのゝ入るし

風げのゝ音ゝあるこゝを色れ

○花ゝ山れ夕ぐゝ紅ぐゝ　吉乃

別ほ戸の二ツ乃る山いかり

○出て月とこゝれ　信脈

此二句ハ第れ三乃白よ曲のゝ入りてこゝの紅白流よ下の

白ゝて篇序頭のゝ入りてゝ白とけこゝゝ

○右ゝ白ゝゝ奇ゝ入れ五ツ紅ゝ書ゝ入ゝ曲

流こゝ下よ篇序歌ゝ入ゝ白ハ曲流こゝ一白よ篇序

題ゝ入ゝ一白曲ゝて四白よ篇序頭ゝ入ゝ序ゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

付句長歌序類　ちと月も輝（カヤク）はるの雲霧（クモミ）　溪石

同じ　あ吟ぜ山もとのゝべく

△道廣くゆき下る雪のみち　江戸不卜

なる白長歌曲流　うらさびぬるぐ兼の袂（エリ）ゆくるる

付句短歌序類　八（クハ）廓へあくと古郷　若人　西都　普山

同じ　今ハとてさいとちぐく月の秋よ

△春よりぬるるいろ島の朋よ　京　友元

なる白長歌付句　春ちる井ッ秋とふけて移ふ

結序ハ七なる句　△ちるれ若しロよりかえてうゝ衣　大坂　倉船

春の顔もうゝぐさみわや連歌を俳諧とこの句のこゝ

しまを下ハ句よゆづり下の句ゝこゝ句ゝこのこゝ

ぜひりぐさあるゝくゝちとのくゝちてゝ句ゝ感情（カンセイ）秀

逸（イツ）ちくゝべゝちぐゝし但奇ゝよし曲と二ゝよゝいゝぐゝとて

ありく序ハ何やもちゝる初とゝ重て一篇ともるゝとゝし

ハゝ感ゝ句ゝハゝ逸ゝとゝかゝくゝと句潜ゝちぐゝこゝし後

ゝ序正流通ゝて句序ゝさゝ句ゝの同源（インエン）解（ケタ）ゝ茶と

流（ナガ）て後正ゝゝとゝて流の脈（ミチ）ゝる句ゝとゝ末ゝ流通ゝ

ゝて真俗の感ゝとゝ俗ゝぐゝとゝいゝる人ゝ知ゝ

まぎれなど奇の篇序題曲流より相の句入り詩のも
起義指合といふるに拙先篇序題曲流は首句とも五字
句とも續け作る時は絶句の体にてもとべきなり第句より
曲流の次のつらば篇序題より云ふ次より曲流の
おとをば次おとをば次のとりてもつくべし其次の篇
序題の次にて二句を結ぶべし
篇序題の次に連歌俳諧と、もとべし第五の篇序
題二句續きたる次は又曲流は次の曲流は
一句の連歌一句の俳諧とん得べ第六俳諧とも歌

のどく物語ととに場ふるまれば三句めにとれと
くふどけくとるもとるもし来て先中一句ぬ
百句のさとみもつくべさうし程に
(六)歌句疎句の事
連歌俳諧差別の所よくつくるまれば
作をおくるまとべし其歌句疎句差別
は歌とくつくるべ俳諧とくつくるべ
きを人は句の付ざ色ふるまぬ奇なる人は疎句なる
奇多し也定家卿よりの所ひるまるとべ歌

徘徊と親白乗懐の体ハ不惜身命の[illegible]と耳ーよ人やと

〜疎白ハけ〜さか〜遠き[illegible]れんとりそめまさとりそる

まり〜〜とぞ宮[illegible]の[illegible]の[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]

安の[illegible]〜〜りにあ〜りれ[illegible]ましえ〜せてるありいるべ〜

みどいつりよ[illegible]欲徘徊をどしてハ水精れ[illegible]ハ[illegible]と

〜〜るやうみと云つりる[illegible]〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

れ[illegible]親[illegible]尾〜〜〜〜白と仕出〜〜〜〜〜白と仕る

紙とおと人ど耳〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

親白仕〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

○親白

〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

片器〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

○疎白

〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

[illegible]やまちつくまで又[illegible]つくるまで
但くゝ云ハ祇園中[illegible]のそこびの者く堤作り作有ことを
て此親白疎白[illegible]ていうあはせ[illegible]深姫くのまゝと[illegible]
作りんを知ゝ此疎白ハ[illegible]白ハ[illegible]白[illegible]ゝ[illegible]
人[illegible]志と[illegible]ゝ[illegible]白ゝ[illegible]白と作り
出せるゝ人[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]者ゝ[illegible]
ゝ[illegible]ゝ但親白疎白くゝ[illegible]
必ゝゝ付合[illegible]ゝ[illegible]
養白[illegible]此二[illegible]連歌[illegible]ゝ云ハ

親白　[illegible]げや[illegible]水よ[illegible]とく[illegible]川
疎白　[illegible]
[illegible]白[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]く疲ひえてる白はしをかとかくえんよのど兎
きりて世れいらんとと思ひくいこと病れ白ひことり
ゆる是と有之体とこと[illegible]を喰の氣毒物ありて樹迄変
きまわるよ家の棟こりふれ[illegible]ごとれ問情
うべ白作ちほめどしてもと紫よこへう
人さとれとこ云ぬだうとつこ[illegible]ある
ちべしこと白とこてこう
これ月だうとよ砂脚の志ちく出れこ
△歌の初やうけひひてもう唐　多　友口堂

一白よちうこ[illegible]ちとこ云つど名ぬとれうこと
こ[illegible]ちこ毒氣皆一白よこちうゆるうや
ちこ[illegible]のどやうよやうこうあるとこちくちう
たうれるとこ[illegible]ちうれ[illegible]べこ作とうこう
毒て毒ちよちやこと云毒ちくべし喰い氣毒ある
よ作りてちこ格みとこ明こちこる二奥も
ちべ仕まれ鶏人とりしひる澤べどんるべどくれ問情
ちべ白作ハこひちうれ新不ぬ云ちかせてこと
ちよよ毒ちおこして味つべとて弱毒

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]ぬるそう姫の字をくくりくくりくくりくくりくくりくくり面
やとし咲きてこれども[illegible]くくりくくりて笑ひと信とるおろん
あしび時節(キニ)く陰月も陰(ヰ)時節相逢ひと聞いて
[illegible]されのりあがりてくくと上西りれ[illegible]げくくあり
月やいとのとろとるかとらぐかるるあるあるぐぶ
[illegible]けるうや彼見ろかな言ぐ[illegible]
出てる白よりうあひひ月出てる白し
[illegible]ぬとれまよ
[illegible]月と張やりーげ

毛者文くうやうる白作とるりるひべー
[illegible]て張やりーげれ
毛者文くる白とおうやう
[illegible]文と白ハ陣(ヂン)白作りるりて下のたく字の
[illegible]月うりかして出し作りることるるるる
をみえとこーをあることを作せるる本をよ出作る
[illegible]ハ羽ハ[illegible]ーて白作りるこのこ
(三)[illegible]草文書
[illegible]ちんを知をるひるとる但[illegible]正

とゝこゝ咲かぬ素帯の姿とゝるゞごとく結合のゝ姿
白の源一白の色續けうる雨あるうゝとゝ云あるうべし

色歌　　藤吉

○梅よ月うゝるる秋はひろう水

紙猪　　伝用

△庭ゝとゝ云の細とゝく扇水

ゝ秋ゝゝやまのとゝごゝとゝ

○紛ゝの泡ゝとゝ合白とゝ

ハ浮すゞゝとゝうゝ白ゝ面白ゝ

ハ若ゝ公卿のゝとゝとゝ

とみるゞごゝしゝゝれば付合ゝ

色歌　　家秋

○姫君ハ朝日を西ゝ光水

△ゝゝゝや蟻地獄水

色歌　　桃吉

ゝもゝや紛ゝゝゝゝ但ゝゝゝの五文字二枝

ゝ古池ゝゝゝゝゝ紙猪ゝ

○草ハ蛙ゝゝゝゝ

ゝゝゝゝ

とみるゞごゝゝ付合ハ赤白の眼

ゝゝゝゝ

ハ桑明ゝ白ゝゝゝ

色歌　　紹巴

○姫君とゝゝゝゝ

雑諸　〈元日ハ大海日毎日農始ル　丹後あつみ今奥

これらをやはひ作りて人をすれども右三種とかうこかうこ
ゆえいろくの風情とかうるべおれど半きあつつとよを
まうくれ元来おのれ別まとのうる姿と立くこれ時ふこと
ゆ毎年まはりてかやしくおこふ爲りうど
よくいまきまりかうこいあしきありこの人てこのこれ
せるを毎年はこ爲れ由とりまとこすかうこど
於こ毎やうまうちかるべおつのあよ毎うべし れこと
八十一月ありしをうちかうべきまるし